

第3回三番瀬再生実現化試験計画等検討委員会の開催結果（概要）

- 1 開催日時 平成19年12月19日（水）午後6時から8時35分まで
- 2 場 所 千葉県国際総合水泳場会議室
- 3 出席者 委員16名
- 4 参加人数 52名

5 結果概要

（1）あいさつ

倉阪委員長からあいさつがあった。

（2）開催結果の確認委員

委員長からの指名により、横山委員、竹川委員が会議開催結果の確認を行うこととなった。

（3）議 事

議題1 第2回検討委員会の開催結果概要

事務局から第2回検討委員会の概要について説明があった。

議題2 干潟的環境（干出域等）形成、淡水導入及び自然再生（湿地再生）について（意見交換）

事務局から、「平成18年度三番瀬再生実現化検討調査報告書 干潟・湿地の事例分析等」、「平成19年度及び20年度の三番瀬再生実現化推進事業の検討スケジュール」について説明があり、再生目標、試験目的等について、様々な角度から質疑応答及び意見交換が行われた。

（主な意見）

- ・ 事例について、造成後の期間、維持管理状況、初期の目的どおり干潟等が維持できているのか等が大事であるので、その点の分析も必要。
- ・ 三番瀬と規模、河口条件等が違う事例よりも、20年の実績がある三番瀬のアサリ養貝場の分析を行うべきである。
- ・ 市川市所有地のまちづくりの中で、環境学習の場の規模はどの位か。
- ・ 県がどういう湿地を作るのか、どういう開削水路を造るのかに合わせ検討しようと考えているが、1ヘクタール位を空けてある。
- ・ 三番瀬の再生は、シンボリックに干潟を造成するのではなく、最終的にはかつての一番良かった時代を目指すのが望ましいと考えるので、漁業、鳥、底生

物のためにも広大な干潟を考えることが本来の姿であると考え。

- ・ 江戸川から洪水時に水を流すのはやむを得ないが、全体を浅くし、海水の交換を早くすることで、淡水流入、青潮に対して強い構造の海になると理解しており、是非そうしてもらいたい。
- ・ 猫実川河口域は、大きな浄化能力を有している。再生のポイントは、生物多様性、環境を悪化させないことであるので、この点に焦点を当てて議論してもらいたい。
- ・ 検討委員会での検討の全体スケジュール、年度内にどこまで詰めるのか等の説明が必要である。
- ・ 大きな干潟は、かなりの時間と労力がかかり、基本的なことの検討も必要である。この検討委員会は試験的なことをやっていこうとするものだと思う。
- ・ 大きな干潟も念頭に置いた上で、試験をやってもらいたい。
- ・ 本来は江戸川から土砂が流れ干潟ができたはずであるが、可動堰があり土砂の流入がない。時々流す度に航路が埋まるので、浚渫土砂を利用して、徐々に干潟を造成していけば良いのではないか。
- ・ 市川二期計画の時から、野鳥のためということが、大規模な埋立ての唯一最大の理由とされてきた。現在ミヤコドリも増えてきている。大きな干潟造成のための土砂入れよりも、三番瀬再生のためには、内陸性湿地からの自然な水と土砂の流入が一番良い方法である。
- ・ 事例にも実験的規模、事業的規模がある。この検討委員会では、何を目的に、どのような規模のものを目指し試験を検討するのかハッキリさせるべきである。
一例を挙げれば、砂質の干潟なのか、泥干潟なのか。それにより来る生物が違ってくる。
- ・ 干潟造成により、アオサがどれ位打ち上げられるのか、貝類が1平米あたりどの位できるのか等も検証してもらいたい。
- ・ 人工干潟かどうかという議論は、今の三番瀬が直立護岸で浦安沖が埋め立てられ、既に人工的なものであることを考えると、そこに泥干潟があって生物多様性が確保できていることは重要なことだが、それ自身が自然かということはまた別の問題である。

泥干潟は生物多様性が確保されるから重要、浦安、市川に泥干潟を再生してその重要性を認識しよう、砂地でアサリがどの位増える等の議論はあっても良い。ミニチュア的なものは人工だけれども、猫実川河口域は自然的なものだという解釈は多分違うだろうと思う。

現在の護岸よりも沖に影響が出ないようにするのか、外側に少し張り出すのかという議論が重要である。

- ・ 再生の目標を立てる時に使える情報を得るということが、今回の試験の目的の1つである。他の事例では推測できないことを確認すべきである。

例えば、貝がいたというサンプリングデータだけでなく、人が本当に入って採れるのかを確かめる必要がある。ミニチュアではなく、再生しようとしているいろいろなパーツの部分的なモデルを切り取って実験するべきである。

- ・ 試験は結果が出なくてはいけないので、目的を決めてそれが出るような規模で造る必要がある。

二枚貝は海水の濾過能力が高い。例えば、干潟を造ることにより、どのような二枚貝が増え、その結果どのような改善ができるのか等を考えれば、砂質や規模は自ずから決まってくる。

(会場からの意見)

- ・ 事例の報告については、人工干潟造成の全体的な評価だけで、干潟内の箇所ごとの評価がなされていない。金沢干潟でも山砂で造成した所は生物相が単調だったが、泥干潟は生物が豊富であった。金沢でアサリがとれたのは、野島からの貝の供給のお陰だと考えている。また、三番瀬は広く多様性に富んでいるので、事例の当てはめは慎重でなければならない。
- ・ 事例は、人工干潟の良い点だけ記載されている。何のために人工干潟かということを考えるため、猫実川河口の泥干潟を見学し、実情をよく知ってもらいたい。
- ・ 泥干潟には底生生物等が多く、野鳥も多く来ている。沖の方まで埋め立てるような人工干潟はいかがなものか。

議題3 干潟的環境(干出域等)形成及び淡水導入に係る試験計画、事前環境調査等について

事務局から、「平成18年度三番瀬再生実現化検討事業における調査結果概要」により、前年度調査で提案された試験計画等について説明があり、質疑応答及び意見交換が行われた。

(主な意見等)

- ・ 護岸検討委員会で話が出ている護岸脇で砂を付けることについての整理はどうか。
- ・ 猫実川での土砂供給試験は、下水道の暫定放流も考慮に入れるのか。
- ・ 猫実川からの土砂供給は、猫実川河口域の問題が出てきて軋轢が大きい。そこで、まずできる所からやるということで、浦安側で稚貝生育の試験や

護岸の小段を利用した再生の試験を考えたらどうか。

また、80パーセントが荒川に行っている水を江戸川にも流す等総合的にや
っていかないといけない。

- ・ 市川市所有地の前に干潟を造ることと、その中に湿地をつくることをセット
で考えるべきである。

(会場からの質問)

- ・ 資料3の市川市所有地前面に設置する土砂は、どこから持ってくるのか。

議題4 その他

- ・ 第2回検討委員会で意見を聴いた3事業に係る「平成20年度三番瀬再生実施
計画(案)」について、県からその後の状況説明があった。
- ・ 第4回検討委員会は、平成20年1月30日(水)に開催されることとなった。

【委員長のまとめ】

現在、最終的にどういうものを目指すのかということと、試験を何のためにやる
のかという議論が混在しているので、これまでの検討委員会での意見等の論点を、
議事録ベースで資料としてまとめ、第4回検討委員会では、この資料を基に、
3事業についての議論を進めていきたい。

できれば、市川市、塩浜まちづくり懇談会から提案等をお願いしたい。また、
漁場再生検討委員会においても関連事項が出ていれば紹介願いたい。

護岸検討委員会で提案されている塩浜護岸東端部での砂付けについて、護岸及び
再生実現化の両検討委員会間で整理していく必要があるので、報告願いたい。

試験計画(案)等は、再生会議へ説明し、評価委員会の評価を受ける必要がある
ので、平成20年度の早いうちに取りまとめていく必要がある。

以 上